

ズレたら打ち返す

ただ、風が強いので、アツという間に仕掛けが風の影響を受けて、狙う所からズレます。やはり、このような時は、手返しを早く、マキエサは広く多めに打って、ズレたら回収を繰り返していると、少しずつクロの型が良くなり、キープサイズ（約35cm）が、釣れ出します。しかし、風の勢いもどんどん強くなり、10時過ぎの見回り船で、強制撤収で瀬替り。これから良くなるタイミングだったので、船長の判断なので、しっかり受けるようにします。（船長の判断では、昼前から風向きが変わり、大シケになるので風裏に移動した方が、良いとのこと。回収時に、女瀬の水道を見ると、怖いぐらいの大サラシと、波が立っていました）



オナガグロ

（背ビレのトゲは攻撃体勢？）

移動して来たのは、枇杷島の「船着き」という磯で、先ほどの女瀬からは、すぐそこ場所ですが、高さのある枇杷島のおかげで、風裏で、別天地です。話は変わりますが、佐多岬の田尻に來られる釣り人の皆様なら分かると思いますが、今まで乗っていた「女瀬の水道」と、これから釣りをする「船着き」は、人気の釣り場で、ここで釣りが出来る喜びで、私は興奮します。ふじ丸の船長に感謝です。

シケに強い佐多岬の磯

話はさらに続きますが、今から約30年前、私がクロ釣りに魅せら

れて磯釣りを始めた頃、天気図が解らないため、とにかく毎週のように、ここに通っていました。ここ佐多岬は、北西の風の時、東側の太平洋向きで釣りが出来、東風の時は、西側の東シナ海向きで釣りが出来ます。

がついたら吐き気と目まい、さらに足はガクガク。飲み物は、全て飲み干し、ナシ。朝の9時に顔は真っ青、息も苦しくハッハッ…今思うと超ヤバかったです）



インダイ師は『くわせ赤貝』で釣り上げました！！

釣れ過ぎに注意！

もちろん、ナギ（風）ばかりとは限らず、大シケ（時化）や、強制撤収、さらに、夏の日には、熱中症になって、朝の見廻り船で、倒れるように船に乗り、どうにかこうにか家に帰った日もあります、帰り着いたのは夜中。（釣り場はケバサガリで超A級磯。朝から入れ食い状態。興奮して釣りをしていると、気

間にある瀬だったの、以前は、中ノ瀬と呼ばれていました。最近、ウノクソ前と呼ばれていま

魚種も豊富な船着き

きて、釣りに戻りまして「船着き」ですが、左正面に小平瀬（A級釣り場でケバ瀬を予約していた人が、以前は、シケの時に乗れる代替瀬でしたが、今は、渡船で違うかもです？）があり、全体的には浅

く感じますが、沖は急深で「船着き」からの海溝と、「小平瀬」からの海溝が、沖で合流しているの、遠投（約20m）するとい、また、魚種も豊富で、磯魚から青物何でも釣れます。潮は、どちらの潮でも釣れますが、海溝つたいに沖に出る潮が、魚の活性も上がる感じです（小平瀬は上げ潮、船着きは下げ潮かな？）。早速、マキエサを足元に入れますが、何も見えません。潮動きもほとんど無しという、今が潮止まりのタイミングで、これから好きな下げ潮が、沖にゆっくり出ていくと思います。



↑サンノジ

ザダイ（サンノジ）。仕掛けはとりあえず女瀬と同じですが、ハリスを2ヒロチョイと長くして、ウキ止めを3ヒロとしてスタートしてま

大体、サンノジが釣れたらタナ



約35cmのオナガグロ。きれいです！！

口太グロ

が深いと言われますが、おそらく今の仕掛けは、潮動きが無いので仕掛けが、立ち過ぎだと判断して、ハリスに打っているジントンの2号をサルカンのすぐ下まで上げて、ハリスをフカすようにします。すると、約35cmのオナガグロ。きれいです。次も同型のオナガグロ。少しアタリが遠のくと、口太グロ、ほぼ入れ食い状態。オナガと口太グロが入れ混じっています。型も良く、30cmクラスから40cm前半までですが、感動です。



す。なので、準備はしっかりして、「一か八かより、確実に獲る」を心掛けるようにします。私が、今回用意したラインは、道糸、ハリスともに4号までですが、条件のいい時は、6号か8号までは、準備した方がいいでしょう。ハリも当然ながら、そのハリスが、しっかり巻ける丈夫で大きなハリを準備して下さい。後で後悔しないように！

ハリスはサンラインのブラックストリーム4号まで各号数を準備しました



ハリはオナガ用の、7〜8.5号なども用意